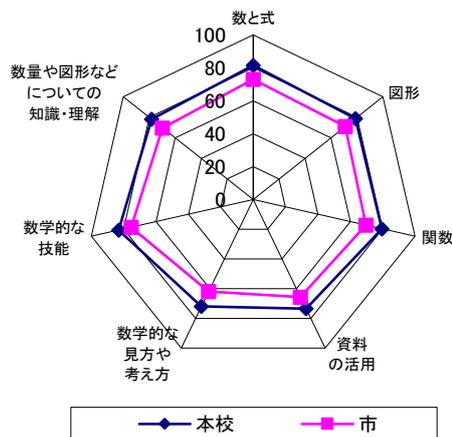


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	81.5	73.0	67.5
	図形	78.9	71.1	59.5
	関数	79.5	69.7	60.0
	資料の活用	73.5	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	72.0	61.8	49.6
	数学的な技能	83.1	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	78.2	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○領域の平均正答率は、市の平均を8.5ポイント上回っている。</p> <p>○2次方程式を利用し、文章問題を解く問題では、市の平均を19.8ポイント上回り、活用する力がついている。</p> <p>●平方根の大小の理解や$(x+m)^2=n$の形の2次方程式を解く問題では、市の平均を10ポイント上回っているものの、正答率が68.4ポイントとやや低くなっている。</p>	<p>・基本的な計算の技能は、毎日の学習の中で定着を図ってきたこともあり、目標とする数値を達成している。今後は、用語の意味の理解にも重点を置き指導していく。</p> <p>・2次方程式の計算の技能においては、さらに反復練習し、より一層の定着を図る。</p>
図形	<p>○領域の平均正答率は、市の平均を7.8ポイント上回っている。</p> <p>○図形を回転移動させた角度や多角形の内角の和の性質の問題では、80ポイントを上回り、概ね理解している。</p> <p>●三角形の高さを表す線分の作図問題では、市の平均を10ポイント上回っているものの正答率が68.4ポイントとやや低くなっている。</p>	<p>・図形領域の基礎・基本の定着は見られたが、活用する問題の理解が十分に達成されていなかった。今後は、図形の性質を根拠を基に筋道を立てて証明したり、見通しをもって作図する活動を通して、数学的な見方・考え方を伸ばすよう指導していく。</p>
関数	<p>○領域の平均正答率は、市の平均を9.8ポイント上回っている。</p> <p>○1組のx、yの値から、関数の式を立式する問題では、市の平均を13.5ポイント上回り、基礎・基本がしっかりと身につけている。</p> <p>●グラフをどのように読み取ればよいかを説明し、判断する問題では、市の平均を10.8ポイント上回っているものの正答率が55.8ポイントとやや低くなっている。</p>	<p>・比例や1次関数の数量の関係を表す式や表については、おおむね理解が図れ、基礎的な技能は身につけている。今後は、実社会に基づく身の回りの事象について、表や式、グラフなどを用いて考えるなどの活動を取り入れ、教科の有用性を高められるようにする。</p>
資料の活用	<p>○領域の平均正答率は、市の平均を7.9ポイント上回っている。</p> <p>○度数分布表から平均値を求める式を選ぶ問題では、市の平均を12.8ポイント上回り、知識・理解が図れている。</p> <p>●平均値の含まれる階級の度数が、もっとも多いという考えが適切ではない理由をヒストグラムの特徴をもとに説明することに課題がみられる。</p>	<p>・1年次に学習した「資料の活用」について代表値の意味の定着が不十分である。3年次の「標本調査」の単元において、資料の整理の内容を関連づけて指導し、理解を深めていく。また、なぜそうなのかを言葉で表現する活動を取り入れ、数学的な表現力の育成を図っていく。</p>